

# 第1学年国語科学習指導案

令和2年7月16日(木)

1 単元名 せかいにひとつだけの「あひるのあくび」をつくってたのしくよもう

教材名「あひるのあくび」(東京書籍 1年上)

2 単元の目標

○五十音図の特徴や、音節と文字との関係に気付き、平仮名を正しく読み、姿勢や口形、発声や発音に注意して声に出すことができる。 [知識及び技能]

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

[学びに向かう力、人間性等]

3 図書館活用教育で身に付けたい力

○図書資料の中の絵や写真などから、必要な情報を見つけることができる。

【情報リテラシー】

4 単元の評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
五十音図の特徴や、音節と文字との関係などに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音などに注意して話している。	積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意しながら五十音図を読んだり、詩のリズムを楽しんだりして、今までの学習を生かしてオリジナルの詩を作り、音読しようとしている。

5 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領・国語の第1学年及び第2学年〔知識及び技能〕の(1)イ「音節と文字との関係などに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。」を取り上げて指導する。本教材「あひるのあくび」では、加えて、五十音図の特徴の理解と、平仮名の正しい読みについても目標としている。

この単元では、初めて五十音図が出てくる。言葉が網羅的に表になっている五十音図には、母音(あいうえお)と、そこからできている音の並びには規則性がある。その規則性を五十音図の構成と呼び、本単元では、この構成を楽しく学ぶために「あひるのあくび」を取り扱うこととなっている。

また単元構成は、まず「あひるのあくび」を音読し、学習の見通しを持ち、その後、五十音図の構成を学ぶ。そして、もう一度「あひるのあくび」に戻り、今度は自分たちの「あひるのあくび」を作ることで、五十音図の構成の理解を深めることができるようになっている。

教材に出てくる言葉遊びの詩「あひるのあくび」は、基本的に四音・四音・五音の三文節からなり、この音の繰り返しが詩全体のリズム感を生んでいる。そのリズム感や音の並びは、五十音の口形や発声、発音に親しむことに適している。また、詩を通して、視覚的に五十音図の構成も捉えやすくなっている。さらに、さまざまな読み方を試すことで、五十音図の中での母音の特徴に気付くことができると考える。

詩の中の四音の言葉どうしは関連する組み合わせになっており、児童がその様子を想像しながら読むという楽しさへつながっていくことが期待できる。

## (2) 児童観 ※省略

## (3) 指導観

本単元は、五十音図の特徴を理解して、口形や発声、発音に注意しながら楽しく読むことができることをねらいとしている。以下、研究仮説に従って述べていく。

### ①課題設定の工夫：ゴールが明確な課題

導入で「あひるのあくび」と出会う。児童は、リズムにのって音読することを楽しむと思われる。また、言葉を替えて読んでみたいという思いを持つ児童もいるだろう。学級でもこのような詩を作り、楽しく読む学習を行うことを伝え、学習の見通しを持てるようにする。出来上がった詩は、学級だけでなく2年生へ音読し発表する、ということ伝えることで「作りたい」という思いをより高めたい。

児童は入学してから、教科書教材の詩の音読をしたり、6月から「詩の暗唱」をしたりしてきた。音読に対して関心が高く、積極的に練習をしたり、たくさんの人に聞いてほしいという思いを持ったりする姿が見られる。また、詩の暗唱の学級発表会では、児童全員が詩をどう読みたいかの願いを持って全体の場で読むことができた。「みんなに聞いてもらえてうれしかった。」という声もあり、今回も意欲的に詩を作成し発表することが期待できると思われる。出来上がった詩を、他学年へ発表したいという思いを持つことは十分に想定できる。児童の思いや考えを尊重し、主体的に取り組む姿を大切にしていきたい。

### ②学習過程の工夫：学校図書館の活用

児童はこれまで、いくつかの詩を楽しく音読する学習をしてきた。しかし、自分で言葉遊びの詩を作る活動というのは初めてである。個々の児童の持つ語彙の量もずいぶん違いはあるが、低学年という発達段階から考えても、「自分で作りたい。」という思いを強く持つと考えられる。こういった児童の実態から、必要な情報や事柄をより広く収集する手段として、学校図書館にある図鑑や絵本などを活用したいと考える。

生活科の学習「いきものとなかよし」の単元では、教室に関連する本を設置した。児童はその本に興味を持って手に取ったりする様子や、本で見つけた生き物を実際に校庭へ探しに行ったりする姿が見られた。今回もその経験を生かし、学校図書館にある図鑑や絵本などを使い、生き物の名前を見つけられるようにする。その際、「誰かに教えてくれるようなおもしろい生き物はいるか」と授業者が児童へ投げかけることで、児童はねらいに迫ってよりじっくりと図書資料を読むことができるのではないと思われる。条件に合う言葉を考え、出し合うことによって、使える言葉、知っている言葉を拡充していくことへつなげたいと考える。また、図書資料を読むことで言葉を見つけることができ、児童が「自分でできた。」という体験の積み重ねの一助となるようにしていきたい。関連図書は本時から使用するが、生活科の学習と関連させ、第1時から教室に置き、いつでも手にとって読めるようにしておきたい。本時以降も見つけた生き物の名前はノートや付箋等書き留めるなどし、学習にも活かせるようにする。(課外を含む。)

### ③伝え合う場の工夫：話し合いの目的や視点の明確化

詩を作るための言葉あつめの活動は、ペア学習で行う。児童はこれまでの学習で、ほとんどの平仮名を読み書きできるようになってきている。しかし、書きたい平仮名がすぐに正確に書ける児童とそうでない児童がいる。ペア学習を取り入れることで、「言葉を探す児童」と「見つけた言葉を書く児童」というような役割分担もよいとし、一人一人が目標を持って楽しく活動できる場を設定する。その中で、「ここにはこんなことが書いてあるよ。」「このひらがなはどうだったかな。」「これはこう書くよ。」など、児童が協働して考える姿が期待できると考える。

1年生はペア学習の経験が少ないので、本を読み一緒に言葉あつめをする中で、話したり聞いたりする楽しさやよさを実感してほしいと考える。さらに、課外の活動として、作った詩を2年生に聞いてもらい、感想を交流する活動を取り入れる。2年生には昨年度作った自分たちの詩と

比べながら聞いてもらえるという利点がある。また、1年生にとっても、思いや考えを直接的に伝え合う機会を持つことで、「作ってよかったな。」「読むのを聞いてもらうことは楽しいな。」という思いを持ち、言葉や詩への関心が高まることを期待したい。自分たちの作った詩をより分かりやすく人へ伝えるためには、言葉のリズムや口形、発声、発音への意識が大切であるという気付きにもつなげていきたい。

本時では、ねらいを「言葉遊びの詩の仕組みを理解し、言葉をあつめることができる。」としている。このねらいを達成するために、まず教師自作の詩をモデルとして示し、活動への関心を高める。正しいモデルだけでなく間違っただけのモデルも示すことで、第1時で捉えた詩の仕組みについて確認できるようにする。また、学校司書と相談して生き物に関する図鑑や絵本などを準備する。児童が言葉をあつめる際に、図書資料を手がかりとする中で、「本を読むと多くの言葉を知ることができる。」という気付きにつなげていきたいと考える。さらに、見つけた生き物のページに付箋紙を貼ることで、児童が後で図書資料を見返しながら活動できるようにしたい。図鑑の読み方については前時までに既習している。ペア活動に入る前に既習の読み方を簡単におさえておき、ペア活動で活かせるようにしたい。また、ペア活動の中で、「これはどうかな。」「いいね。」などと話し合いながら生き物の名前を見つけている姿や、相談しながら言葉あつめを進めている姿を取り上げ、全体の場で褒めることで、協働することのよさに気付かせていきたい。生き物の名前を図書資料の中から見つけにくい児童への支援として、授業者と対話しながら、詩の仕組みを振り返って確かめたり、一緒に本をめくるなどして見つけたりするようにする。見つけた生き物の名前を発表し全体で共有する際は、その生き物を動作化させたり、関連する次の四音を全体で考えたりし、次時の活動を意識できるように促していきたい。

6 単元の指導計画（全4時間）

時	学習活動	留意点や支援 (◆司書教諭・◇学校司書の支援)	評価規準及び評価方法
1	<p>○言葉遊びの詩を作ってみんなで楽しく読むという学習課題を知り、学習の見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書P4, 5「あひるのあくび」を音読し、おもしろさを味わうとともに詩の特徴を捉える。</li> <li>挿絵とつないで内容を確かめながら、詩の言葉への関心を高める。</li> <li>好きな行を選んで視写し、工夫して音読する。</li> <li>本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生への発表を意識させることで、学習の見通しを持ち主体的に取り組めるようにする。</li> <li>文節の頭音で手を叩きながら音読し、詩の特徴に気付かせる。</li> <li>動きを付けたり繰り返される文字(音)を強調したりするなど、音読の工夫を積極的に試すよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩のリズムを楽しみながら進んで音読している。【主】(音読・発言・行動観察)</li> </ul>
2	<p>○五十音図を読み、特徴について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時のめあてを確かめる。</li> <li>教科書P6, 7の五十音図をさまざまな方法で読む。</li> <li>五十音図の特徴について話し合う。</li> <li>濁音・半濁音を読んで、特徴について考える。</li> <li>各行ごと、各段ごとに読む練習をする。</li> <li>本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>五十音図をさまざまな方法で読み、親しみを持ったり、特徴に気付いたりできるようにする。</li> <li>五十音図の縦横の列(「行」や「段」)の呼び方についておさえる。</li> <li>口をはっきりと開け、正しい発音で音読できるように口形写真を使う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>口形や発音に注意して五十音図を音読し、その特徴に気付いている。【知・技】(発言)</li> </ul>
3 (本時)	<p>○図書資料から生き物の名前をあつめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時のめあてを確かめる。</li> <li>教師自作のモデルを読みながら、詩の仕組みについて確認する。</li> <li>図書資料を読み、生き物の名前を見つけて付箋を貼ったり、ワークシートに書いたりする。</li> <li>あつめた言葉を発表する。</li> <li>二段目の四音になる言葉をみんなで考える。</li> <li>本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師自作の詩をモデルとして提示(間違ったモデルと正しいモデル)し、詩の仕組みの理解へつなげる。</li> <li>段ごとに色分けしたワークシートを用意し、どこの言葉を見つけるのか、どこに書くのかを分かりやすくする。</li> <li>何ページで見つけたか確認しやすいように、付箋を活用する。</li> <li>活動の様子を見て、言葉を見つながら詩の三段目(四音の語)を考えてもよいことを伝える。</li> <li>友達のあつめた言葉を共有することで、次時の学習に活かせるようにする。</li> </ul> <p>◇関連する本を準備する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉遊びの詩の仕組みを理解して、言葉をあつめている。【知・技】(ワークシート・発言・行動観察)</li> <li>図書資料の中の絵や写真などから必要な情報を見つけている。【情報リ】(ワークシート・発言・行動観察)</li> </ul>

並行読書 生き物に関する図鑑・絵本(生活科の学習と関連して)



4	<p>○自分たちの「あひるのあくび」を作り，作った詩をみんなで味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてを確かめる。</li> <li>・3時であつめた言葉に続く四音の語を考へて，言葉遊びの詩を作る。</li> <li>・作った行の中で，お気に入りのものをいくつか発表する。</li> <li>・学級全体の「あひるのあくび」にする詩（行）を話し合う。</li> <li>・出来上がった学級全体の詩を声に出してみんなで楽しく読む。</li> <li>・感想を交流する。</li> <li>・単元の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一段目と二段目の四音の言葉どうしができるだけ関連するよう，様子を絵に表すことができる組み合わせになっているか考えさせる。</li> <li>・二段目の語は必ず四音でなくても，「が」「の」「で」などの助詞を補って四音になればよいことを全体で確認する。</li> <li>・親和的雰囲気大切に，友達の詩のよいところ目向けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉遊びの詩の仕組みを理解して，詩を作ろうとしている。【知・技】（ワークシート・発言・行動観察）</li> <li>・自分で作った詩を，発生や口形に注意しながら，リズムを楽しんで読もうとしている【主】（行動観察）</li> </ul>
特活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生に作った詩を聞いてもらい感想を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した作品を教室に掲示し，朝の会で声に出して楽しく読む場を作り交流を広げる。</li> </ul>	

7 本時の学習（3/4）

(1) ねらい

○言葉遊びの詩の仕組みを理解し，言葉をあつめることができる。【知・技】（1）オ

(2) 展開

主な学習活動と予想される児童の反応（・）	教師の支援（○）と評価（☆）
<p>1 前時までの学習を振り返り，本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1 学習のめあて 2 生き物の言葉をあつめる 3 あつめた言葉を発表する 4 ふりかえり</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>あだんの いきもののなまえを みつけよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元全体と本時の学習の流れが分かるように，模造紙等を掲示しておく。</li> <li>○教科書『あひるのあくび』を読み，気持ちが集中できるようにする。</li> <li>○教師自作の詩をモデルとして示し，活動への関心を高める。</li> <li>○モデルを基に第一時で捉えた詩の仕組みを確認する。</li> </ul>
<p>2 ペアで図書資料を読み，あ段の生き物の名前を見つける。</p> <p>○一段目の4音になる生き物の言葉をあつめ，よりおもしろいと思う言葉をワークシートに書いていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あ」は，あざらしがあるよ。</li> <li>・「ざ」は，どうかくんだったかな。</li> <li>・「か」は，かたつむりがあった。</li> <li>・でも，それだと5もじだよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どのペアも教え合いながらできるように，ペアリングに留意する。</li> <li>○図鑑から探す際には，既習の読み方（目次から探す）ができるように声をかける。</li> <li>○たくさん見つけることよりも，より面白いと思うものを見つけるためにじっくり読むことを心がける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆図書資料の中の絵や写真などから，生き物の言葉を見つけている。【情報リ】 (ワークシート・発言・行動観察)</p> </div>

<p>3 見つけた生き物の名前を発表する。 ○あつめた言葉の中からいくつかの生き物の名前を発表する。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>○見つけた言葉のページを記録できるよう、付箋紙を活用する。</p> <p>○見つけた言葉の音数を、手を叩くなどの動作化で確かめる。</p> <p>○見つけた生き物を動作化させ、二段目の四音の言葉を見つける際の手がかりにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆詩の仕組みを理解し、図書資料の中から進んで言葉をあつめている。【知・技】 (ワークシート・発言・行動観察)</p> </div>
--	---

(3) 評価の具体例

評価規準	十分満足できると判断される状況	おおむね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
知識・技能	<p>言葉遊びの詩の仕組み(四音の言葉どうしが関連する組み合わせ)を十分理解し、次時の活動を意識して図書資料から進んで言葉をあつめている。 【ワークシート・発言・行動観察】</p>	<p>言葉遊びの詩の仕組み(四音・四音・五音)を理解し、図書資料から進んで言葉をあつめている。 【ワークシート・発言・行動観察】</p>	<p>生き物の名前を図書資料から見つけられない。 ⇒対話をしながら、言葉遊びの詩の仕組みを振り返り、どこがおかしいかを考えさせる。</p>

(4) 研究の視点

○図書資料を活用したことは、詩を作るためのさまざまな生き物の名前をあつめる上で有効な手立てとなっていたか。

8 研究協議の概要

参加者	校内 15 名、校外 13 名 計 28 名
授業及び研究協議の概要	<p>〈授業の概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材は「あひるのあくび」(東京書籍 1年上)で、本時は全4時間の3時間目である。1時間目で言葉遊びの詩を作ってみんなで楽しく読むという学習課題を知り、学習の見通しを立てて、「あひるのあくび」を十分に音読した。その後、2時間目には五十音図の特徴について学び、3時間目の本時は図書資料も使用してオリジナルの「あひるのあくび」を作った。4時間目には学級全体の「あひるのあくび」にする詩を話し合いで決め、出来上がった学級全体の詩を声に出してみんなで楽しく読んだ。単元の終末には他学年に発表した。</li> <li>・単元を通して並行読書として図書資料から生き物等について調べ、興味を深めておいた。</li> <li>・単元の目標は「五十音図の特徴や音節と文字との関係に気付き、平仮名を正しく読み、姿勢や口形、発声や発音に注意して声に出すことができる。(知識及び技能)」 「進んで五十音図を読んだり、詩のリズムを楽しんだりすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)」と設定した。</li> <li>・図書館活用教育で身に付けたい力は「図書資料の中の絵や写真などから必要な情報を見つけることができる。」と設定した。</li> <li>・本単元の指導にあたり、3つの視点で指導を進めた。             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 課題設定の工夫：ゴールが明確な課題の設定</li> <li>② 学習過程の工夫：学校図書館の効果的活用</li> <li>③ 伝え合う場の工夫：話し合いの目的や視点の明確化</li> </ol> </li> </ul> <p>〈協議〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は「あひるのあくび」の音読にしっかりと親しみ、計画的に並行読書を行ったことで、「オリジナルあひるのあくび」作りを楽しんでいた。また、学習の見通しを持てるように単元計画をしたことで、単元の終末の2年生への発表を楽しみに感じる気持ちを醸成できたことが良かった。</li> <li>・1年生ということもあり、無理に図書資料を利用するのではなく、興味を広げるきっかけぐらいの活用が自然でよい。ペアで生き物の名前を見つけている姿や相談しながら言葉あつめを進めている姿はとても微笑ましかった。</li> <li>・全体の場で児童の姿を取りあげて褒めることで、協働的に学ぶよさにも気付いていた。生き物の名前を図書資料の中から見つけにくい児童への支援として、授業者と対話しながら詩の仕組みを振り返り確かめていて良かった。</li> <li>・動作化や劇化も使える手立てになると考えられる。</li> </ul>